

は

づ

No. 9

羽津地区市民センター
羽津地区社会福祉協議会
昭和59年3月15日

ロングビーチ公園誕生《霞ヶ浦緑地公園》

妹妹都市20周年を祝い、除幕した記念碑の前に握手を
交わすクラーク・ロングビーチ市長と味香太郎会長

本市と米国ロングビーチ市との姉妹都市提携20周年を記念した式典が昨年11月19日、トーマス・クラーク・ロングビーチ市長夫妻らを招いて霞ヶ浦緑地公園で開かれた。

本市とロングビーチ市は、さる38年9月、産業や港湾など似かよった環境から姉妹都市を結んでいる。以来親善使節団の相互訪問、夏休み時の高校生の交換、親善を深める記念品の交換などが行われてきたが、このたび、姉妹都市提携20周年を記念して、霞ヶ浦緑地公園の北部約8ヘクタールをロングビーチ公園、また、中を通る散策路をロングビーチ通りと命名し、ロングビーチ、四日市両市長が公園の記念碑の除幕を行った。

このほか、アメリカハナミズキの記念植樹ロングビーチ通りのテープカットなどもあり双方の関係者は、さらに交流を深めることを誓った。

第10回交換学生として、昨年の7月21日から1ヵ月間、ロングビーチ市を訪問した森晶子さんに、ロングビーチの印象を次のとおり語っていただきました。世はまさに国際社会の時代です。伸びゆく郷土に新たな活力を期待したいものです。

ロングビーチの思い出 別名町 森 晶子（南高校2年生）

南カリフォルニア州のロングビーチ市は、地図で見るとロサンゼルスすぐ下に位置し、北米の太平洋岸にある人口36万人の都市ですが、ちょっと買い物にいくにしても、自動車でも十分走らなければならないということで、改めてアメリカという国の広さを感じさせられました。

油田と工業地帯で有名なので、もしかしたら、四日市と同じように「公害都市、というイメージがあるのでは……」と思いましたが、想像と現実とは全く逆で、ロングビーチという名の通り、美しく続く海岸は、海水浴客でにぎわっていました。

何といっても印象的だったのは、街並が整然としていて、道路網が発達しており、街全体が美観を感じさせることでした。そして、何よりもまず私を迎えてくれたことは、明るい温かい心を持った人たちです。ホームステイと言って、一般の家庭に10日ずつ、3軒の家に滞在したのですが、どの家庭もまるで家族の一員のように温かく迎えていただきました。私の英語はあまり通じなかったけれど、身ぶり、手ぶりでもわかってもらえる場合も多く、心を伝える手段は、言葉だけではないのだということを強く感じました。

また、日本の高校と異なる点は、入試制度がないこと、学生服は着用せず、すべて普通の服装で、女性徒は、適当に化粧が認められていることなどは、アメリカのお国柄がよく現われていると思いました。

ともあれ、1ヵ月間の滞在で、いろいろな人と出会いましたが、このたびの親善訪問が両市の友情のかけ橋としてお役にたてたかどうかはわかりませんが、このすばらしい思い出を、いつまでも大切にしたいと思っています。



ロングビーチ通りの
テープ・カット
くす玉を割る森晶子さん

住みよいまちづくりをめざして

市長を囲む地区懇談会



水路内部構造(2m×3m)
工事がすすむ1号幹線水路(瀬古製粉付近)

コミュニケーションをはかり
民意反映に努めたい
加藤市長あいさつ

◇住みよくなるまち、歩きたくなる道、やすらぎのある公園。いまわたしたちは人間都市への復権を求め、明日のひらかれた郷土づくりに大きな期待と関心を寄せている。

◇さて、昨年の十一月二十八日、羽津地区市民センターを会場に恒例の市長を囲む地区懇談会が開かれた。同懇談会には、市当局から加藤市長、関係部長

市も排水対策には心血を注ぐ

下水路整備費に52億円

排水対策は地区民の生命 都市下水路の整備促進を

幹線水路は、羽津地区にとって排水対策上欠くことのできない重要な水路である。一、二号幹線水路の早期整備と併せて、浸水を解消するため、三号水路も早急に着手願いたい。

また、また三号幹線水路を光明寺付近まで早期に延長できるよう国に対して、強く働きかけている。(下水道部)

垂坂山からの鉄砲水 早く適切な対策を

垂坂山に羽津山線の延長道路が整備され、道路事情はよくなったが、反面、降雨時には山からの流水が路面に流れ出し、緑丘町から羽津病院に至る周辺地域は浸水をまぬがれない状態である。早急に適切な排水対策をお願いしたい。

【答弁】ご指摘の箇所については、雨水による流水対策を考慮して、去る五十七年度に調整池を完成させた。しかし、豪雨時ともなると予想を上回る流量があり、地域住民には大変ご迷惑をおかけしている。これを解消するため、今年



この道路は、羽津地区の中心部を縦断する主要道路であるが歩道がなく、道幅が狭いうえ最近の交通量の増加により安全通行ができない状態である。羽津用水を暗渠にして、道幅を拡張し、安心して通れる道路に整備してほしい。

県道(員弁)四日市線 道幅拡げ、安全確保願う

この道路は、羽津地区の中心部を縦断する主要道路であるが歩道がなく、道幅が狭いうえ最近の交通量の増加により安全通行ができない状態である。羽津用水を暗渠にして、道幅を拡張し、安心して通れる道路に整備してほしい。

垂坂山緑地公園を市民の憩いの場に整備できないか

市民の憩いの場として古くから親しまれてきた垂坂山は、都市近郊に残る唯一の自然公園である。市の緑地計画において、適切な保存と活用方法はないものか。

【答弁】子どもたちに親しまれてきた垂坂山は、由緒ある古戦場跡もあり、このたびこの古戦場跡を緑地地域の範囲に加えて、その面積を四十・八ヘクタールに拡大した。すでに市の都市計画審議会におはかりして、国・県の指導を仰ぐよう申請中である。

施設の整備計画については市街地にとり囲まれた市内でも数少ない丘陵地であるのでできるだけ自然の形態を保った形で、散策などを楽しめるような緑地公園にしたい。今年度は事業に着手するための調査測量を一部実施しているため、これらの点を考慮に入れて計画をまとめていきたい。(都市計画部)

学校現場の訴え

よりよき教育環境を!!

老松のせん定に 暖かい手を

〈羽津小〉

- 1 老松の剪定
 - 2 校庭の整備と側溝の新設
 - 3 校舎北側の土手の修復
 - 4 中庭の排水工事
 - 5 北校舎三階便所の新設
- ◇羽津小の由緒ある老松の剪定、消毒等の維持管理費について……市では樹木剪定については各学校間において樹木の種類、本数等に差異があり特に老松等が多いところは予算の増額を新年度予算編成にあたり検討を加えている。
- ◇本校の運動場は西側と北側の落差が著しく、雨天には土砂の流出がはげしいので、側溝をつけてほしい……他校との均衡をとり検討したい。



砂ぼこりに悩む 羽津北小学校

◇校舎北側の土手(法面)の補修を早急に……北門から東部にかけての石積みのように西側の補強工事も出来るだけ早年度で実施したい。

◇中庭の水はけが悪いので排水工事を……今後検討したい。

◇北校舎三階に便所の新設を……本校は羽津北小の分離に伴い余剰教室が出来ているので、その改修整備とあわせて充分検討していきたい。

決め手なき 砂ぼこり対策

〈羽津北小〉

- 1 羽津北小の砂ぼこり対策
 - 2 米洗川右岸堤防の整備
 - 3 羽津北小の特別教室の設置
- ◇砂ぼこり対策については、防風林として植樹したり、散水栓等の設置により緑化推進にあわせて今後検討したい。
- ◇米洗川右岸(南側)堤防の整備については、現在下流から行っている河川改修事業国道一号线以东を今年度中に完了し、以西から近鉄線までは五十九年度から四、五ヶ年

非行対策に専念する 教師の増員を

〈羽津中〉

- 1 生徒指導教員の増員確保
- 2 諸施設の整備充実
- ① 第二理科室、音楽室、同準備室の増設
- ② クラブハウスの増設

行政当局との連携を密に 適切な市政運営を期待

住みよいまちづくりの建設は、地域社会の構成員たる地区住民の創意と工夫によらなければならぬ。

しかし、当地区にとって、環境整備の促進や学校施設の充

実をはかることは、切実な問題である。それだけに行政当局の適切な指導と協力を仰がなければならぬ問題は極めて多い。平素これらの諸問題解決のためには、地区議員の方々はじめ、関係諸団体の役員各位のお骨折りにより、逐次改善を

はかられているところであるが、この懇談会を機に今後とも行政当局と、より一層連携を密にして豊かなまちづくりが推進されることを期待したい。

みんなで楽しく…羽津地区文化祭

あなたもぜひご参加を！ 三月二十五日(日)羽津小学校で

- 今年度は、これまでの作品展に舞台芸能と伝承あそびを加えた幅のある行事を企画しました。ご近所お誘い合わせのうえぜひお出かけください。
- ◎ 作品展 市民センターの各サークル・一般応募・青少協・幼保育園児らの作品展。
 - ◎ 舞台芸能 市民センターの各サークル・鼓笛隊・幼保育園児による伝承あそび等披露。
 - ◎ 伝承あそび 作品展
 - ◎ 手づくり作品の実演コーナー・屋外での集団あそび(自由参加)です。お一人でも多くの子どもたちが参加されますようお願いいたします。
- ◆ 作品展示(九時半) ◆ 煎茶(十時) ◆ 抹茶(十一時) ◆ 舞台芸能・伝承あそびは、正午から実施。詳細はプログラムでお知らせします。

前年度の作品展



歴史を刻む

羽津小学校の老松



◇米洗川右岸(南側)堤防の整備については、現在下流から行っている河川改修事業国道一号线以东を今年度中に完了し、以西から近鉄線までは五十九年度から四、五ヶ年

みどりのまちづくり わたしたちはこう考える

うさぎ追ひし、かの山。 小ぶな釣りし、かの川。 夢は今も、巡りて。 思い出づる、ふるさと。

あの昔懐かしい小学校唱歌。何だか、私たちの幼い頃の思い出が、そのまま歌われているように思われて、今でも折りに触れて口づきみたくなる。大自然の緑につつまれた静かな農村であつた羽津も、時の流れと共に人口一万三千人を超える清楚な住宅地域に、また、地域経済を支える活気に満ちた近代工業地域となり、豊かな生活を楽しめるようになった。

どんだん失なわれて行く大自然の緑。無謀な開発を責める声も大きい。しかし、明治の頃の羽津村を再現できたとしても、決して喜んで住める魅力のある土地とは云えない。そこで「緑の町づくり」について、自由に話し合っていました……。

A 「緑の町づくり」を広い立場から自由に話し合つて欲しいのですが、先ず公園の問題から……

B 「垂坂山を公園に！」 永年の羽津地区住民の要望も、一向に進みそうもないが……

C いや。市では将来「自然公園」とする計画を持っており、「公園緑地地域」に指定して……

D でも、四方からあんなに開発が進められている。計画があるのなら、いつまでに、どの程度のと云つた青写真を示すべきだ。

E 垂坂山は私有地でしょ？ 簡単に出来るのかしら……

垂坂山に遊歩道 自然観察の手引も

A 出来る、出来ないよりも、こうすべきだ、こうして欲しいと云つたことを話し合つたら……

C 遊歩道を整備するだけでも……

立派な自然公園となるネ。それに草木の名前と説明を書き添えた木札を立てるとか……

D この程度なら、地主の了解を得て、市の力で出来そうだ。

E 更に、オリエンテーリングやキャンプでも出来れば、オンの字だね。

児童公園にも緑を 木陰はママの社交場

F 話しは変わるが、児童公園には、余り樹が植えられていないようだが…… また、砂遊び、水遊びの出来る場も欲しい。

B そうだ。植樹をし、木陰にベンチでも置いて公園らしくすると良いネ。子供を遊ばせに来た母親同志が、木陰のベンチで井戸端会議。コミュニケーションの絶好の場となる。

E 広くなくても良いから、こ

んな小公園がアチコチ—— 欲を云えば各町に一つ—— あると良いナ。ラジオ体操、ジョギングなど、例の「健康づくり運動」を地域に根ざしたものに発展させる場ともなる。

市と住民の代表で 公園検討委員会

F 公園、公園と云うけれど、果してどのくらい利用されているのかしら……

A 去年七月に行われた「市政アンケート調査」によると、月に一回以上利用したと答えた人は、全体の20%で余り利用されてはいないよう

だ。しかし詳しく調べると、

(1) 市街地や団地開発の進んだ地区の人の公園利用率は非常に高い。(自然の緑に恵まれた周辺地区の5倍)

(2) 年齢・職業による利用率の差も大きい。60歳以上の人が20〜30歳台の人に近い高い利用率を示している。学生、主婦・サラリーマンの利用率の高いことは予想通り。

(3) 主婦は児童公園、若い人は体育施設のある公園や自然公園、お年寄りには近くの小公園を好んで利用している。

年齢・職業・地区の区別なく人気が高いのは、中央緑地と昭和幸福村だ。

E 貴重なデータだね。公園を作る以上利用されなくて

は何の価値もない。莫大な投資を必要とする以上、10年20年先の人口、産業構造、生活様式、趣向などを予測して、十分に検討する必要がある。

B 早速、市の専門家と住民代表で「公園検討委員会」を結成し、長期計画の青写真を作ってみたいらどうだろう。

A 大きな話になりましたネ。この辺で身近な、また地区だけで出来る問題に話題を変えてみましょう。

D 「緑を育てる心」が緑の町づくりの出発点だ。センターで盆栽教室、園芸教室を開いたら……?

F 園芸愛好者が増えるだろうナ。日曜、朝のNHK「趣味の園芸」は参考になる。その他、新聞の園芸欄も。

C 園芸日誌をつけて置くのと良いネ。去年のを見ながらやると、「ウツカリ忘れてた!」の失敗が防げるし……

E 市で安い苗木をあっせんにしているそうだが、もっとPRした方が良いネ。

F 植樹をしたい気持はあっても場所がなくて……

D 米洗川の南堤を借りられないかしら、桜の苗木を安くあつせんし、みんなに植えて貰う。昔の桜堤が復活し、新しい名所が生まれる。

B 垂坂山の松枯れも困つたものだ。地主が駄目なら市で処分して貰って、大々的な植樹祭を行うと良いネ。

C 子供会も「緑の少年隊」を作つて、この運動に参加させれば、健全育成の道にもつながるよ。

F 植樹も大切だが、今ある樹を大切にすることも必要だ。少くとも松食虫対策は。

E 市の「緑の相談室」は余り知られていないようだ。何でも教えてくれるから、もっと利用した方が良いでしょう。

D 住んでみたくなる町 歩きたくなる道

A そろそろ話しをまとめましょうか。

C どれも難しい問題だが、先ず出来るものから少しずつでも始めることだ。こうした運動を続けられれば、市としても援助してくれるだろう。

D 広報で、緑のキャンペーンを続けることも大切だ。

A いろいろ、ご提案ありがとうございます。みんなの力で、この羽津を「住んでみたくなる町」「歩いてみたい道」にしたいものです。



羽津町 伊東由加里

成人の日の朝

成人の日を迎えた朝、私は異様な緊張感がありました。というのは私が以前に描いていた二十歳の像と現在二十歳を迎えた自分とを比べてみると、大きく違った点に気付いていたからです。私が以前に描いていた二十歳の像というのは、今よりもずっと大人で社会的にも十分に認められ、ま

た自分自身の生活設計が立てられている完璧に近い人間を想像していましたが、現在二十歳を迎えて、自分がその半分も満たされていないなかつたということでした。

確かに今までの親のすねもかじり何ん自由なく生活を送ってきた私にとっては反省しなくてはいけない点です。ちょうど今年二年間通っていた学校を卒業し就職をする予定なので、これを機会に経済的、社会的また家庭的にも自立できるように考えていきたいと思っています。

また、新成人になると重大な責任と義務をもつことな

るので、これに対する心構えもしなくてはなりません。私が二十歳となつて何よりうれしかったことは未成年でなくなつたこと、つまり有権者の一人として扱ってもらえることです。まだまだ、一人よがりの勝手なことばかりしていますが、これからは自覚をもつた行動をするように努力し、私の住んでいるこの羽津が住みよく明るい町になるよう努力します。



大宮町 青木陽一郎

人の痛みがわかる 人間になりたい

成人式に出席し今日から大人の仲間入りなんだと思つても、まだピンとこない。しかし一人の大人として選挙権を得たことは政治への

参加者として緊張と共に身の引き締まるような責任を感じる。酒、タバコ、車の免許もない三無主義で全くカッコいい若者ではないが、自分で決めた将来だから自分で責任の持てるようになりたい。

最近の世相は大人のエゴによる子供道連れ心中、放火、サラ金事件と暗いニュースばかりが新聞をにぎわしている。さらに子供の非行の低年齢化一体何が子供を大人を虫ばんでるのだろうか。第一に辛抱が足りない、大人は子供をあまやかすし、なんでも子供の言いなりになっている。子供は小さい時からの躾が大切だ

と想う。

家では母がとても厳しく自分のことは自分でする躾がつけられた。小学校の低学年の頃夜おそく帰つて二度ばかり締め出された。それから現在では夜遅くなる時は必ず電話で所在をはつきりとさせている。私は今離れ一人住んでいるが便所、部屋の掃除、洗濯は全部自分でやっている。高校の時、友達に誘われて献血をしたから一回目で金杯をうける。二十歳の記念にぜひ献血を…… ぼく達の若い血で世の中に少しでも役に立ちたい。正直者がバカをみない人の痛みがわかる人間になりたい。



別名2丁目 林 茂雄

二十歳の春に思う

人生は、喰て、寝て、起きて、糞たれて、子は親となる。一休和尚の狂歌です。私はこの歌を聞いて今までの人生観が大きく変化しました。私が苦勞して今まで何かを築いてきたように思っていたのに、実際には一休の歌のような二十歳だったのです。では、なぜこのような人生を送つてき

たのでしょうか。それは、人生の目的を持っていなかったからだと思います。では、人生の目的とは何なのでしょう。言葉を変えれば私たちが何を求めているのでしょうか。それは誰もが求めている幸福でしょう。その幸福とは「安心と満足」ということでしょうか。では私たちが幸福になるためには何が必要なのか。

金、地位、名誉、財産、スポーツ、健康、友人、恋人、学問、芸術、両親……があれれば幸でしょうか。例えばお金が百万円あれば幸せだと思つていても、次々と欲がでてきてありません。大金を持て

ば失うこと不安感。がつきまといま。結局お金。は不満と不安を与えるので。真実の幸福とは言えません。他のものも決して真実の幸福のものではない筈です。

「人間は考える葦である」とは、パスカルの名言である。私たちは考えることによつてこの人生をやり多きものになければなりません。二十歳を迎えこれからの人生を努力していくつもりです。

21世紀を担う 新成人の抱負

これからの世の中どうなるんだろうか。先行き見通しのつかない混迷の時代である。しかし、若者には夢と希望がある。今年当地区で新成人になられた方は157名。若さと逞しさを誇りたい。有志の皆さんから、20歳の抱負についてコメントをいただいた。



別名4丁目 森 美補

私の人生は私だけのもの 青春に悔いなし

マンガ二十か、モウ二十か、人によってそれぞれの考え方は異なりますが、世間一般にはこの「二十」は大人と区分

される年の様です。私はいま、社会人でありながら夜は学生に成り代わつて名古屋の専門学校に通っています。授業を終えて家に着くのは夜の十時頃、山ほどの宿題にもめげず我武者羅に頑張っているつもりです。その点で毎日がとても充実しているように思います。学校へ行っている分だけ自分の持てる自由な時間は少ないわけですが私は満足いく日々を送っているのです。大好きな旅行にも出かけ、友達とのワイ談やテニスもやっています。春にはちよつとカッコつけて乗馬にもチャレンジしてみようか

と思っています…… 時間と言うものは自分から作つて上手に使うものではないでしょうか。現在、会社と学校を両立させ、そして存分に趣味を楽しんでいる私は、青春時代を悔いなく過していると思つて言い切れることをほんとうに幸せだと思つています。自分自身の内面的な独立を目指す……これが私の抱負です。誰のものでもない、私の人生は私だけのもの、自信をもって…… 日頃忘れがちな両親に対する感謝の気持ちを大切に頑張つて行きたい。古い文化と新しい文化がうまく調和され明るく活気ある町であつてほしい。



鷺町の伊藤隆行さんと
西野政行さんのご一家

ステキなおとなりさん♡

バレエを通して 心のふれあい

私たちが大変お世話になつてお隣りさんの紹介をさせていただきます。
羽津バレエ部に入学してからのつき合いで、五年目になります。
私たちは、南と北に実家があり、伊藤さん宅は親同然の方です。
仕事で忙しいご主人と、仕事とバレエ部主将の両立でフル回転している奥さん、そして二人の子供さんがいる家族です。
練習日となると、主人はコーチ、私も選手です。
二人の子供は、伊藤さんの

長女佳代ちゃんが子守役です。
ですから、私たち夫婦は心おきなく練習に励む事が出来ます。何よりも一番楽しみにしていることは、おいしい総菜が食べられないうちにお家に届くことです。
まだ小さいわが家の子供は、伊藤さん夫婦を本当のおじいちゃん、おばあちゃんと思つているのか、車が見えると飛んでいき、伊藤さんを困らせています。
忙しい毎日でも温かい家庭を持つ伊藤さん夫婦を、私たちが見習つていきたいと思つています。
大変世話好きで、頼りになるお隣りさんです。
(鷺町西野早苗)

あなたの町の募 ジュニアリーダー集

あなたの町の子供会では、ジュニアリーダーをもつています。
ジュニアリーダー(J・L)は、子供会活動を活発に行うために、いろいろな世話をしてくれる高校生のお兄さん、お姉さんたちです。また、町の子供会育成の一員として子供たちのよき相談あい手として活躍を期待

されています。
あなたたちは、J・Lになると行事の時にゲームや歌などで子供たちを遊ばせなければ...と思つてためらつておられませんか?
J・Lは、決してそんな存在ではありません。自分の住んでいる町の子供会の中には、子供たちによきアドバイザーを、ともに学び、遊び子供たちと一緒に活動します。
また、育成者のおじさんたち

の子供会育成活動にも積極的に参加して、具体的な指導に当る。こんなことを行うのがJ・Lです。地区青少年育成協議会では、そんな若い力、ジュニアリーダーの募集を四月に行います。
育成者のみなさん、あなたの町の子供会のために、J・Lの候補者を探してください。そして子供会活動の中で、J・Lと子供たちが、仲々とたくましく育つて行くよう見守つてやっていただきたいと思つています。
《青少年協からのお知らせ》

俳句

《志氏ヶ野句会より》

村田 青麥選

日翳れば花の淋しき鵲草

白須賀二丁目 館 二三子

群りて餌を乞ふ鯉に降る紅葉

大宮町 武藤 弘子

籠鳴の廃寺礎石に鑿の跡

城山町 宮田 健三

なびく藻に花葛浸る野川かな

羽津町 藤井まき女



柿の枝に日毎に日毎に鳴る鶉の聲

羽津町 大森みつゑ

葉の落ちて辛夷の花芽日を満す

羽津町 藤井まきへ

とりの声山霧に澄み冬の宿

大宮町 山本 幸

背丈程の菊を並べる日和かな

鷺町 安田 源吉

残菊の日溜りに来し蝶一つ

八田町 久志本幹子

師を訪ふやしだれる萩の肩にふれ

城山町 片岡とき代

マンションに馴れて五階の夏座敷

城山町 川本 ふみ

わたしの健康法



羽津町
松永 実(52歳)

ジョギングは 若さの秘訣です
十二年前の冬、朝起きると腰が痛み、ゆっくりでないと、歩けなくなつて来た。
すぐ内臓疾患か...またリユーマチを連想し、厄介なことになったと思ひ、内科や整形外科の門を叩いたが、レントゲン検査の結果は異常なかった。
それでも腰は痛く、電気療法・ハリ・マッサージ療法・薬と、ひとつおりのことを試してみたが、はかばかしくない。どうやら極度の運動不足で血液の循環が悪いのではないかと。

と指摘された。
そこでジョギングは、ひとりですぐに出来る運動であるからと進められ、無理をせず腰をかばつて走る訓練を数週間つづけた。
その甲斐があつて、うその様に痛みがなくなつて来た。
私の健康管理は「これだ」と心に決め、ジョギングに感謝しながら、以来走りつづけて十一年...
早朝のジョギングは気分がよく、町内を走り回つてからの朝食は、また格別においしく感じる。ジョギングと仲良しになり、旅行先でも早起きして湖畔を一周したり、神社やお城を走り回つて来るまで車で通過するだけの旅行とは違った想い出が残る。
これからはマイペースで老化防止と健康な身体を維持し、充実した毎日を過ごすために、いい汗を流すことを忘れず、ずっと走り続けたいと思つている。皆さんもジョギングを始めませんか。

♪芳志ありがていようしました

福祉の発展にと
50万円寄付
城山町 味香さくさん

福祉活動の重要性が高まつている折、昨年末地区の社会福祉の向上と発展に役立ててほしいと、現金五十万円をご寄付いただきました。心温まるご芳志に深く感謝申し上げますとともに有効に活用させていただきます。

文庫本など
68冊寄贈
別名四丁目 服部一三さん

地区のみなさんにご活用を、昨年十月文庫本等六十八冊をご寄贈いただきました。氏は民生委員として活躍いただいておりますが、青少年との交流も深く、彼らが愛読した図書も地区文庫へご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

短歌

《羽津野短歌会より》

小林 英選

鱗雲あかねに映ゆるこの一瞬
あやしきまでに空をいろどる

別名四丁目 青木 照子

くれなるの空の輝き面に受け
四方山拝みぬ元日の朝

大宮町 小井 正二

新らしき未知の世界の年明けぬ
苦難ありとも命守らん

大宮西町 井村左兵衛

久びさに大雪降りて凍る道
人も車も一列となれり

鷺町 伊藤 品子

神杉の樹末の狭き澄空に
翼静かに鳥かけのゆく

大宮町 加藤 光子

若きらの宴のあらし去りし
夜風聞きつつ夫と酒酌む

羽津山町 坂倉 俊枝

ストーブの燃ゆる前より立ちあがり
一人の寮に帰りゆきたり

富士町 杉本 光子

毎年の行事となりし夏の旅
今年かぎりか中学二年の吾子

別名一丁目 長谷川 横子

やすらぎ苑い号火葬場の扉閉じ
読経流れて叔母は焼かれぬ

川原町 平子 季昭

白衣着け玉砂利踏みて朝露の
古殿地を掃く心清しき

羽津町 藤井まきへ

病む姑に曾孫誕生を告ぐる日を
待ちつつわれは産着縫ひをり

羽津町 前田素女子

枯れがれの芒穂ゆるる土手のかなた
伊吹の雪山碧く輝く

桑名市 村田 千代

千羽鶴舞ふ軸かけて床飾る
父のせし日となつかしみつ

金場町 森 房子

市主催の障害者スポーツ大会に
当地区から参加した児童の文集の
ひとつを紹介します。



しょう害者スポーツ大会 に参加して 羽津北小学校6年1組 酒井 陽子

10月23日にしょう害者スポーツ大会に行きました。このスポーツ大会は、しょう害者の人達といっしょにする大会でした。

大会がはじまると、目のみえない人や足が不自由な人が一生けんめいになって、スポーツにはげんでいました。お昼休みに足の不自由な人達が車いすに乗って、バスケットボールをしていました。私は、これを見ていちばん感動しました。それは、私達よりもずっとずっと上手だからです。

あんなに体の不自由な人達が、あんなに一生けんめいになってバスケットボールにはげんでいるのは、とてもいいことだと思います。もし、わたしが、あの人達の立場だったらとても、あんなふうにはできないと思つていました。それにくらべて、わたし達は、めぐまれているなあと、なんとも思つていました。私もしょう害者の人達に負けないうようにがんばっていきたくです。

羽津の歴史 執筆すすむ

羽津郷土史研究会は、去る五十四年に発足以来毎月一回市民センターで学習会を開いていきます。郷土の歴史や文化財等を探索しつつ新しい文化の創造と発展に役立てようと日々研鑽につとめています。この研究会では、先人の足跡や郷土の歩みを何とかまとめた形で記録に残そうと、このたび仮称「羽津の歴史」の編さんにとりかかっています。発行は、地区社会福祉協議会事業の一環として企画しておりますのでご期待ください。



フォト
でみる 行事あ・ら・か・る・と



▼地区防災訓練(9月4日)
初期消火・バケツリレー



新しい行事、そして地域の誇りある伝統行事、これらのひとつひとつは、その時代に生きる人びとの心に新たな感動と「ロマン」を呼び起こすものです。
昭和五十八年度も地区のみなさん方のご協力により、数多くの行事が行われました。昨年八月以降地区社協等が主催した行事の中から思い出の記録をカメラで紹介いたします。

▲第2回ゲートボール大会(11月13日)
婦人会Bチーム優勝!



▲地区総合体育大会(11月3日)
鼓笛隊パレード、青少年の健全育成啓蒙



◀文化財防火デー(1月24日)
志氏神社での消火訓練



▲陶芸教室(2月15日)
土と炎の芸術に挑戦



▶幼児子育て講座
(2月25日)
造形実践の学習、折り紙のいろいろ

ヒマチ
日待神事

二月十五日の夜に鶴で行われる神事であるが、かつては羽津のほうでも大きな祭りの前夜にそのつど行われていた。

本来、神は社殿に常在されるのではなく人が神まつりを行うその場へ臨時に降りたまうものと祖先から言い伝えられてきた。しかも祭りの前日の真夜中に神の降臨をおおぐというところに重要な意味があり、神を迎えてたてまつる祭儀の中心として日待の神事が位置づけられたといえる。本来、この神事は女人禁制で大正の末頃からは宮守青年団によって継承されてきたが、現在は、自治会の役員に氏子総代が加わり公民館を宿にして行われている。

その年の一月、代参によってお迎えした神をまつり、夜を徹して語り明かし翌朝日の出を拝んで神社に奉納したのち解散するといふもので、伊賀留我神社の神事として古くから受け継がれている。
〔詳細は「羽津のむかし」第二集、人生儀礼と年中行事 P.39、P.42 参照されたい〕



あとながき

「市長を囲む地区懇談会」「みどりの町づくりについての討論会」を中心に編集しました。住みよい町づくりについて皆様の一層のご理解とご協力をお願いします。

- 編集メンバー
- ◇武藤 秀雄
 - ◇天野 平一
 - ◇小川 良二
 - ◇岡屋 孝子
 - ◇小平 容子
 - ◇味香 秀子
 - ◇酒井 マチ子
 - ◇木村 恵子
 - ◇羽津地区市民センター



羽津の人口
(昭和59年2月末日)

男	6,580人	+46
女	6,614人	+48
合計	13,194人	+94
世帯数	3,940世帯	+44

前回比

地区広報モニター募集

より親しみのある「広報紙」にするためこのたび広報モニターを募集します。紙面の充実にあなたのお力をお貸しください。詳しいことは市民センターへお問い合わせください。